社会科学習指導案

単元名「水産業のさかんな地域」（第５学年の内容（２））

令和〇年〇月〇日(〇)第〇校時　５年〇組教室
５学年〇組　　指導者　〇〇　〇〇

Ⅰ　単元の構想

１　目　標

我が国の水産業に関心をもち、水産業が自然環境を生かして営まれ国民の食生活を支えていることや、水産物には外国から輸入しているものがあること、主な漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ輸送の働きを理解するとともに、国民生活を支える水産業の発展について考えようとする。

２　評価規準および児童の実態

	評価規準	児童の実態
知識・理解（ア）	①水産業に携わる人々が、自然環境を生かすなど様々な工夫や努力をして生産したり、新鮮さを保ちながら輸送したりして国民の食生活を支えていることを理解している。 ②我が国は世界有数の水産国でありながら、漁場の変化や水産資源の減少などの問題を抱え、養殖業や栽培漁業、水産物の輸入が増えてきたことを理解している。	・「米づくりのさかんな地域」では、我が国の米の生産は、自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを理解していた。ただし、我が国の米の生産は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることについては、十分に理解していない児童も見られる。また、米の生産に従事している人々の工夫や努力について理解していた。
技能（ア）	③水産業が盛んな地域を事例として、我が国の水産業の様子について、地図や統計などの各種資料を活用して読み取っている。 ④水産業が盛んな地域の生産活動の様子や水産業に従事している人々の工夫や努力について調べたことを、ノートや漁業別地図にまとめている。	・地図や統計などの資料を活用して、米の生産に従事している人の工夫や努力について、必要な情報を集め、読み取っていた。また、ほとんどの児童が、調べたことをノートにまとめることができた。
思考・判断・表現（イ）	①我が国の水産業の様子について水産業が盛んな代表的な地域の事例を調べるための学習問題や予想、学習の計画を考え表現している。 ②水産業が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考え、適切に表現している。	・「米づくりのさかんな地域」では、我が国の米の生産の様子について、教師の支援を受けながら、学習問題や予想を考え、表現していた。また、米の生産と自然環境や国民の生活とを関連づけて、自然環境と深いかかわりをもって営まれていることをよく考え、適切に表現していた。しかし、米の生産は、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることまでの考えには至っていない児童もいる。
関心・意欲・態度（ウ）	①我が国の水産業の様子に関心をもち、水産業が盛んな地域の生産活動について意欲的に調べている。 ②国民の食生活を支える水産業の発展について考えようとしている。	・「米づくりのさかんな地域」では、日本の米の生産の様子に関心をもち、庄内平野を事例として調べようとしていた。国民生活を支えている我が国の米の生産の発展について、消費者や生産者の立場から進んで多角的に考える児童は少なかった。

３　単元計画および指導方針

時	過程	学　習　活　動	評価	指　導　方　針
１本時	つかむ	日本の水産業の様子について、地図や統計資料を読み取る活動を通して、わかったことや疑問	イ①	・日本の近海は海流が流れ、大陸棚が広がっていることで、良い漁場に恵まれていることに気付くように、地図と本文から

		に思ったことを整理し学習問題をつくる。		読み取るよう助言する。
2	追究する	写真やイラストから、沖合漁業についてわかったことをノートにまとめ発表する。	ウ①	・写真から沖合漁業の漁の様子をつかむために、装備、人の動き、周りの様子などに目を向けるよう視点を示す。
3		写真を見て、水揚げされた魚が食卓に届くまでの流れについてわかったことをノートにまとめる。	ア①	・新鮮なうちに魚を消費地に届けるための工夫に気付くように、ノートにまとめさせる際、解決のヒントとなるよう詳しい情報を知らせる。
4		写真や漁師の話から、遠洋漁業の漁の工夫などについて、わかったことをノートにまとめる。	ア③	・一本釣り漁のよさ、大変さの両方に気付くように、まき網漁法の方法と比較して考えていくよう助言する。
5		地図とグラフから、日本の漁業の様子について読み取りわかったことをノートにまとめる。	ア②	・生産量の減少に伴い、輸入量が増加していることに気付くように、漁業別の生産量の変化と水産物輸入量の変化のグラフを比較して考えるよう助言する。
6		写真やイラストなどから、ほたて貝の養殖やひらめの栽培漁業についてわかったことをノートにまとめる。	イ②	・ほたて貝やひらめのの大きさが実感できるように、それらの大きさを絵などで示す。
7	まとめる	日本の水産業について、考えたことをまとめる。	ウ② ア④	・学習問題のまとめができるように、日本地図とイラストをつけたワークシートを用意する。

Ⅱ　本時の学習

＜ねらい＞　日本の水産業について、日本が水産物消費国であることや、近海がよい漁場になっていることを教科書の本文や資料から調べることを通して、気付いたことや疑問に思ったことから学習計画を立てることができるようにする。

＜板書計画＞

9/13 p.92

め　水産業のさかんな地域について考え、単元のめあてをつくろう。

日本の近海は、

2から

・暖流と寒流が流れぶつかっている。
・たくさんの種類の魚がとれる。
・太平洋側や北海道に水あげ量の多い漁港が多い。

3から

・大陸だながあり海草がよく育ちプランクトンが多く魚が集まる。

4 から

・どの国よりも一番魚を食べる。
・昔からたくさんの種類の魚を食べている。
・魚は食生活には欠かせない。

◎ 気がついたこと、疑問

・たくさんの魚をどうやってとるのか。
・とれた魚はどうするのだろう。
・とれた魚はどうやって私たちの所に来るのか。

(学習問題)

単め　水産業のさかんな地域では、どのような工夫をして、私たちの食生活を支えているのだろうか。

ふ ①

＜展開＞

学習活動	指導上の留意点
1　「水産物クイズ」に答え、水産業について学習していくことを知る。（３分） **2　本時のめあてをつかむ。（２分）** T：「水産業のさかんな地域」について学習します。単元の最初は何をしますか。 S：単元のめあてをつくります。 ＜めあて＞ 水産業のさかんな地域について考え、学習問題（単元のめあて）をつくろう。	・水産物について興味をもつことができるように、「水産物クイズ」を出題する。 ・日本が世界でも有数の水産物消費国であることに気付くように、「主な国の一人１年当たりの魚や貝の消費量」の資料を工夫し提示する。
3　地図や本文から日本の近海の様子や水揚げ量について読み取り話し合う。（12分） T：地図を見て、日本の近くの海の様子について、何か気付いたことがありますか。 S：海流が流れている。 S：北からの海流と南からの海流がぶつかっ	・日本の近海は良い漁場に恵まれていることに気付くように、海流の流れ、暖流と寒流のぶつかり方、魚の種類、大陸棚等に着目し、地図と教科書の本文と結び付け事実を

ている。 Ｓ：日本の周りの海には、大陸だながある。 Ｓ：海そうがよく育ちプランクトンが多い。 Ｔ：主な漁港の水あげ量について気付いたことがありますか。 Ｓ：太平洋側に水あげ量の多い漁港が多い。 Ｓ：北海道にたくさんの漁港がある。	確認していけるよう問いかける。 ・地図の読み取りや文章の読解に課題をもつ児童に対して、日本の近海は海流が流れ、大陸棚が広がっていることで、良い漁場に恵まれていることを理解できるように、動画資料を提示して理解を促す。
４　資料や自分たちの食生活を基に、日本人にとっての水産物の必要性について考え、話し合う。（８分） Ｔ：「主な国の一人１年当たりの魚や貝の消費量」のグラフから、何がわかりますか。 Ｓ：日本の一人あたりの一年あたりの消費量は一番多い国である。 Ｓ：日本は、中国、アメリカ、ロシアの２倍近く魚や貝を食べている。 Ｓ：日本人は魚が好きなのかな？ Ｔ：みなさんはふだんの生活で、どんな水産物を食べていますか。 Ｓ：昨日の夕飯でまぐろの刺身を食べた。 Ｓ：今朝は、おにぎりでのりやシーチキンを食べました。 Ｓ：沢山の種類の魚が料理に使われています。	・水産物は日本人の食生活にとって欠かせない食材であることに気付くように、「主な国の一人１年当たりの魚や貝の消費量」の資料を再度提示する。 ・考えが出てこない場合には、１週間の学校給食で出される水産物の種類や回数を確かめられるように、給食の献立表を見る活動を設ける。
５　わかった事実から疑問に思ったことや調べたいことを出し話し合う。（10分） Ｔ：わかったことから気付いたことや疑問に思ったことをノートに書きましょう。 Ｔ：気が付いたことや疑問に思ったことを出しましょう。 Ｓ：どこで魚を捕るのだろう。 Ｓ：どうやってたくさんの魚を捕るのだろう。 Ｓ：捕れた魚はどうするのだろう。 Ｓ：捕れた魚はどうやって私たちの所に届くのだろう。 Ｓ：水揚げ量の多い漁港にはどんな施設があるのだろう。 Ｔ：魚や貝を捕ったり、育てたりする仕事はもちろん、捕ったものを加工したり消費者まで届けることも含めて水産業ということもあります。	・自分の考えを整理するために、資料を基に気付いたことや疑問に思ったこと、調べたいことをノートに書くよう指示する。 ・水産物や水産業についての疑問や調べたいことが共有や焦点化できるように学級全体で話し合う場を設ける。 ・発言内容が共有できるように、発言し合った内容の共通点や相違点は何かを質問したり、その理由を問いかけたりする。 ・板書内容を基に、キーワードを確認できるように、発言内容のキーワードは何かを問いかけたり、矢印や線でつないで板書に示したりする。 【知識・理解】（発言内容やノートの記述内容） 我が国の水産業の様子について水産業が盛んな代表的な地域の事例を調べるための、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。
６　本時のまとめとして学習問題をつくり、学習の振り返りをする。（10分） ＜学習問題＞ 水産業がさかんな地域では、どのようなくふうをして、私たちの食生活を支えているのだろうか。 Ｔ：長崎、焼津、青森など地域によって魚の捕り方がどのように違うのでしょうか。 Ｓ：地域で捕れる魚によって捕り方が違う。 Ｔ：今日の学習を振り返りましょう。 Ｓ：日本の近くの海で、たくさんの魚が捕れるわけが分かりました。	・学習問題をつくることができるように、単元を通して解決したい大きな問題は何かを問いかけ、児童の発言を基に、板書する。 ・水産業が盛んな地域の様子をイメージできるように、追究内容に関わる漁港や船、湾の写真を提示する。 ・本時の振り返りとして、「特に興味・関心をもったことは何か」を中心にノートに書くよう促す。